



♡まんまるはーと♡

第7号

認定こども園和光幼稚園

平成29年11月30日

主幹 宮園 貴子



【ことばの力】

～子どもの側にたち言葉の育ちを考える～

12月3日の『なかよし発表会』に向けて、子どもたちは劇や遊戯、オペレッタの練習に楽しく取り組んでいます。その中で、セリフを言ったり、友達や教師と対話をしたりし、言葉の伝え合いの経験もしています。幼児期の育ちには「聞く」「伝え合う」経験が、いっそう大切なこととして考えられています。

幼児期にこそ培いたい言葉の経験として、次の3つが挙げられています。

～3つの経験～



- ①遊びや暮らしの中で、他の友達や大人の人との対話を通して世界が広がる楽しさの経験
- ②すでに知っていることや外で得てきた情報ではなく、たどたどしくても言葉を使うことでその場で考え活動が生まれていくことの意義や楽しさの実感
- ③言葉にはならないもどかしさや悔しさ、言葉がすべてではないことを仲間とのやりとりの中で学んでいく経験

言葉は思わず発せられることが多くありますが、その場で言って良いこと、いけないこと、少し考えることが大事なこともあるということを知ることにつながります。

言葉は子どもの心を形づくり、また子どもの心がその子どもらしい言葉や語り口に表れてきます。

子どもの言葉の力がもっとも発揮されるのは、創造的な遊びに挑戦したり友達との遊びの中で子どもなりの社会的責任から発言したりする場面です。

上述の3つ経験を日々の園生活の中でも育てていくことができる場や経験を、これからも大切にしていきたいと思います。

【こころもち】



子どもは心もちに生きています。その心もちを汲んでくれる人、その心もちに触れてくれる人が、子どもにとって有り難い人、うれしい人であると言われていています。ある本で読んだエピソードの一つです。

廊下で泣いている子どもがいました。涙を拭いてあげ、どうして泣いているのかを尋ねます。随分いろいろなことを言い、してやりもしますが、ただ一つ、してあげていないことがありました。それは、泣かずにいられない心もちへの共感です。

泣いている子を取り囲んで、子どもが立っています。何もせず、何も言わないけど、さもさも悲しそうな顔をして、友達の泣いている顔を見ています。なかには、何だかわけも分からず、自分も泣きそうになっている子さえいます。

心もち心もちであり、その原因、理由は別のことです。その子の今の心もちにのみ、今のその子があるのです。



☆なかよし発表会☆

12月3日(日)に、なかよし発表会を行います。子どもたち一人一人が主役となり、舞台上で劇・遊戯・オペレッタを発表します。

衣装を着ること、舞台上に立つこと、保護者の方に見ていただくことに期待感が膨らんでいる子どもたちです。子どもたちの可愛い姿や立派な姿を、どうぞ楽しみにしててください。